

令和5年度 第2回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和5年度 第2回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和5年10月12日(木) 午前10時から正午まで
3	会場	安曇野市豊科交流学習センター「きぼう」2階 多目的交流ホール
4	委員出席者	丸山委員、百瀬委員、森本委員、宇田川委員、伊藤委員、金井委員、 笹本委員、古川委員、城戸委員、三原委員
6	事務局出席者	矢口教育部長、三澤文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館原館長、 豊科近代美術館清澤館長、田淵行男記念館兼飯沼飛行士記念館中田館長、 安曇野高橋節郎記念美術館宮澤館長、穂高陶芸会館小倉館長、貞享義民記 念館寺島館長、臼井吉見文学館平沢館長、逸見博物館担当係長、幅博物館担 当主査、佐野文化振興担当係長、塩原文化振興担当主査
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	0人 (うち記者 0人)
9	会議概要作成年月日	令和5年10月20日

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開 会 (文化課長)
- 2 あいさつ (教育部長)
- 3 報告・協議

(1) 令和5年度各館事業進捗報告

・各館長から報告

■豊科郷土博物館

・企画展は春季「わたしの野良着」展、夏季「古代・中世の墓を覗く」展。いずれも良い評価を頂いた。信濃毎日新聞のコラムに載り、市外からの来館者が増えた。「博物館で夏休み」は大変好評で参加者が合計198人となった。2月末からは、「はくせい動物園」展を行う予定。

■豊科近代美術館

・中島展は入館者数5,000人。宮芳平展は一昨日終了し入館者数が1,000人。
・休館中、三郷学習交流センター「ゆりのき」、豊科交流学習センター「きぼう」を使って、入場無料の展示を行う。収蔵作家の周知、三郷出身作家、地域にある作品をお借りする。

■田淵行男記念館

・新型コロナ5類引き下げで来館者増を期待したが、旅行者支援終了、物価上昇、猛暑の影響か思ったより増加しなかった。子供たちの利用は増え小中学生の入館者は前年比121%。
・子ども対象「むしの会」は参加者30人弱。全10回の開催予定。ちくりに生きものみらい基金充当事業で、子どもたちの来館が多数あった。
・山形県酒田市の土門拳記念館に作品貸出しの協力を行った。
・田淵行男賞、令和6年度作品募集、令和7年度授賞式、展覧会を開催予定。

■飯沼飛行士記念館

・8月末までの入館者数は前年比92.1%で、前年比をわずかに下回った。

・常設展は、アンケート結果、大変よかったは 95.7%。

■穂高陶芸会館

- ・例年 4～6 月は学校行事に伴う団体客が多数あり、県外 5 校が修学旅行で作陶体験した。
- ・一部のクラブ員マナーの悪さが見られた。マスク着用が個人の判断に移行したこと、何年か会話ができなかった状況の反動かと思われる。各会員に注意喚起し改善。
- ・豊科近代美術館とのコラボ企画が人気。9 月以降の大人対象講座に新たに取り組む予定。
- ・焼成窯が、昭和 58 年以來 40 年間替らず、以前から入れ替えの要望を申し上げている。ハードの面も老朽化しており、調整しながら行いたい。

■高橋節郎記念美術館

- ・開館 20 周年記念図録を 9 月に発行、現在特別展を開催している。
- ・沈金体験講座、夏季ワークショップ講座も好評。ナイトミュージアム参加者が昨年の 2 倍。
- ・25 弦コンサート、草月流の長野県支部による生け花は今回、初めて開催。
- ・来年度、高橋節郎館生誕 110 年特別展を豊田市美術館と連携して開催。

■貞享義民記念館

- ・入館者数は昨年より少なく、大半が貸館の来館者。特に夏は冷房がなく、8 月は敬遠されて人数が減る。
- ・貸館の企画展室の利用は高齢の方々による展示発表が多い。格安料金のため人気か。
- ・9 月末から 10 月いっぱい特別企画展を開催、今週末は講演会。

■臼井吉見文学館

- ・例年開催の 7 月の講演会は、筑摩書房の経営者をお呼びして実施。
- ・生涯学習課で行う安曇野アカデミー事業に関連し、交流学習センター「みらい」で展示を行った。文書館収蔵の『相馬愛蔵と黒光の歩み』展示パネルの写真撮影を行いデジタル化。政策部にて進めている小説『安曇野』大河ドラマ化へ協力している。
- ・来年度は文書館と連携して小説『安曇野』完結 50 年の企画を開催する予定。
- ・入館者数は前年度より若干減少したがミュージアムカードの配布終了が影響か。

■穂高郷土資料館

- ・入館者は去年を超えた。今年「勾玉作り」に 72 人参加。近隣にある民間施設「ガーデンあづみの」と連携して宿泊割引を実施し前年より入館者増につながったか。

■博物館担当

- ・「平和憲法を生かす会」に協力し、広島長崎の原爆パネル展示で中学 2 校を回った。被爆ピアノコンサート等へも協力。穂高神社の終戦記念特別展へ資料の貸出し等の協力を行った。
- ・新市立博物館構想について、安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会の準備中。新しい博物館のあり方、施設の統廃合の方針などを検討したい。

■美術館博物館連携事業

- ・文化庁の補助金を活用して事業を実施予定。
- ・無料開館を行い、約 900 人が来館。
- ・ちくに生きものみらい基金充当事業を活用し小中学生に美術館・博物館にも訪問していただいている。

・委員より意見

委員 博物館の夏休みの活動は見事。残念なことは、近隣の参加者が多い。もう少し広範囲の小学生たち、親子が参加できるような広報の方法があるといいのでは。後で報告を読んで、残念がる親子あるいは小学生たちが多いいのではないか。

委員 市の公式ホームページに各館のコンセプト、開館時間、入場料が載っている。PC で

	見る分には問題ないが、印刷したときにフォントが小さく問題がある。文化課で作成されていると思うが、せつかくのホームページでのPRであるので、フォントを大きくしたり、写真をもう少し入れたりという工夫が必要だと思う。
会 長	広報のあり方で今一番大きいのは、コンピュータ等でどうしたら見てもらえるのかということ。それぞれ考え、事務局で全体を統括しながら、思いが届くように広報していただきたい。
委 員	たくさんの方の努力をされていることに頭が下がる思いである。普段、あまり目が向かないので、各館の活動を目にすることが少ない。活動が多くの人目につく工夫があるとより良い。可能であればホームページから割引のダウンロードが出来るようにするなどはどうか。
会 長	広報の本当の問題は、例えば、印刷等をどのぐらいにして効果がどれほどあるのかしっかり検証していかなければいけない。割引の問題で各館が一番困るのは、おつりなど受付の処理の問題。いかに簡略化しながら、お客さんに来ていただくかということも、今後の大きな課題になってくる。
委 員	コロナも収束し、5類になって入館者も観光客も増えてくると期待をしていた。昨年の企画との兼ね合いもあって減ということなのか。その一方で、ワークショップが非常に盛況だったという報告も見られる。ワークショップや出前講座で楽しんでくれたので、次に実際に来館する何か仕掛け作りをやってみると、リピーターの確保になるのでは。市内のミュージアム無料の日がNHKニュースに取り上げられた。職場も噂になるまで知らなかった。マスコミの力は大きい。アカデミー事業、定員70名のところ申込90名があったということは、学びたいという安曇野市民がたくさんいる。美術館・博物館にもうまく呼び込む仕組み作りができるのでは。
会 長	安曇野市はワークショップその他非常に丁寧に取り組んでいる。決して人数は多くないが、逆に市民に寄り添うような活動をしている。たくさん人が来たということだけを見るのではなく、この努力をしっかり評価していきたい。
委 員	数が全てではないということはあるが、大学生の入館者が0という数字は申し訳ない。博物館実習等々で安曇野の皆さんには助けられている。関わりをより深めていくため、大学の中で学生に対する周知や告知アピールを強めたい。館の皆さんと具体的な方法について意見交換させていただければと思う。大学のホームページにリンクを貼ったり、シェアする。その際にどういうビジュアルになるか確認も進めた上で、ホームページの整備を徹底していただくのはどうか。
	もう一つは、来年度、高橋節郎さんの生誕記念展が行われ、豊田市美術館から作品が動く。輸送トラックにもスペースがあるだろうから、せつかくのご縁を一つの契機にし、豊田市美術館の所蔵作品のコンパクト展示や小さな作品を借用し活用することはお願いできるのでは。具体的には、宮脇綾子さんの作品は、美術と工芸の境界を考える上で、また高橋さんの作品を理解するカギになる。フォスコ・マライーニという山岳写真家で、東洋学者、人類学の研究者としても非常に著名な人物の写真コレクションがある。ポートレート作品を借りれば高田博厚のコーナーの意味がぐっと高まり、田淵行男の世界と面白いオーバーラップが広がっていくのでは。あるいは現代アートを借りるのもいい。実際にトラックが動くことを活かした一工夫ができると活路が広がる。進めて来られたコンパクト展示とまた別の位相が広がるのでは。休館の豊科近代美術館も、将来的にはこういったチャンスはあると思う。
会 長	大学の方の広報はぜひお願いしたい。金井委員は以前豊田市美術館にいたのでよく知っている。こういう人材を逆に展示あるいは地域の連携の中で活用させていただくことも私達の使命だと思う。
委 員	時代に関係なく、道具と技術と生活習慣は博物館に関係がある。昔ならどうしてい

事務局	<p>たか、以前の生活はどうだったのか、今の生活は当たり前じゃないのではないかと、昔にさかのぼりながら将来に向けての知恵を出す。展示を見るだけではなくフリースペースのような場所で遊びのなかでそういったことが共有できるのでは。また、新市立博物館構想に関して、これだけ財産を持つ安曇野市のいろんな美術館・博物館を想定し何をどのようにしようと思っているのかをお伺いしたい。その議論をもう少しこの場でしてもいいんじゃないか。新しい松本市博物館のテーマに対し安曇野市はどうテーマをどう絞っていくのか、議論したらどうか。</p> <p>新市立博物館構想の整備検討委員会で、どういう新しい博物館を作ってどういう形で統廃合していくか、議論のテーマによって変わってくる。発信やPRについても安曇野、松本それぞれ違う形でお互い生かしあってしかるべきだと思う。また違う形でなければ、同じものができてもしょうがない、それらを含めて整備方針検討委員会で、議論をしていきたい。</p>
会長	<p>当面、私どもの博物館協議会は現状にある博物館をいかにして良くしていくかを議論すべき。今後の新市立博物館をどうするかという委員会は別組織として設けるといふ点をご了解いただきたい。</p>
委員	<p>ミュージアム活性化事業について、前回の事業計画にミュージアムサポーター活用の項目があったが、今回なくなった。私はずっと参加させていただいている。市民が安曇野市を知るためにも、すごくありがたいもの。現在約10名が登録と資料に出ているが、その後、募集することもなかった。もっとたくさんの市民が知っていたらどうか。</p>
事務局	<p>資料でサポーターのことに触れておらず申し訳ない。今年度もサポーターの皆さんに参加いただきいくつか事業を行っている。昨日も対話型鑑賞研修にご参加いただいた。他にも各館のチラシの封入などでご参加いただいている。今後の募集については、美術館・博物館の事業とサポーターにお願いしたいこと、逆にサポーターの皆さんができることの間、ミスマッチを感じており、今すぐの新規募集が難しく新たな募集をかけていない。もう少し事業を整理する中で、拡大できることなら拡大していきたい。もうしばらくお時間いただけるとありがたい。</p>
委員	<p>昭和15年『広辞苑』で「博物館」の欄では、最後に社会教育に寄与するための施設と書いてある。令和元年では、その文章がなくなってしまった。収集品の調査研究を行う機関と捉えている。社会教育に寄与するという意味で、私もできるだけ講演会や展示に参加させてもらっている。安曇野市の美術館・博物館でいろんな展示、講演や行事も工夫をされて、社会教育に寄与するような活動を追究しておられる。半年ぐらいで毎週イベントに出てそう感じている。さらにまた頑張っていただければ、私どももいろんな意見を述べさせていただいてその都度、必ず講演に出たら一つは質問するようにしたい。</p>
会長	<p>博物館もずいぶん変わってきた。当初博物館は、資料収集、保管、研究、展示、それに発表もある。長野県立歴史館も教育委員会からおそらく知事部局に移る。各地域でもずいぶん変わってきている。多くのところで観光が重要視される中で、安曇野市の場合は教育委員会がきちんと教育を含め、多くの人に利用してもらって初めて地域の文化度が上がるだろうと思う。それぞれ報告する意識も変わる。みんなで少しでもいい形に持ってきてほしい。</p>
副会長	<p>より良い展示をもっと多くの方に観ていただけるという立場で企画展について二、三話する。市内、県外、全国に視野を広げての展示。伊藤委員の話は、今年10月の郷土博物館の原館長が自ら取り組んだ展示を参考例としていただきたい。もう一つは市内の人たちにもしっかりと目を向けなければならない。裾野を広げ、それからリピーターを増やす。</p>

注目すべき展示が二つある。一つ目は、豊科近代美術館の宮芳平展での、エピソードや書簡をうまく入れたストーリー性のある展示。宮芳平の人物像、作品の変化が十分楽しめた。もっとやればいい。エピソードや書簡を中心に、絵はそこにくっつけるくらいで、インパクトのある展示になるのではないか。人間に興味のある立場からすると十分である。今までと違うということで豊科近代美術館の殻を破る事ができるんじゃないか。

同じように、貞享義民記念館の加助伝説展は意外性と面白さが良い。完成度は低いが館長1人で、しかも専門外だから仕方ないが、専門家・研究者では触れられないようなことを、広い視野でとらえられることは大事。貸館で入館者を確保することは邪道だ。義民館の内容をうまく使うと今の展示の続きは来年・再来年続けてやっても発展するんじゃないか。ぜひ館長には手厚く検討いただきたい。

8月26日、安曇野の場を巡って講演会があった。「みらい」で立ち見を含めて200人定員のところに250人参加があった。できれば人数もあった方が良く、絶対的な人数があれば、市博物館構想など今奮闘しているものも、先の見通しができ、自信や誇りになる。安曇野の今ある水準をもっともっと大切にしてほしい。

委員 広報について、安曇野には、別荘にも住民がいる。別荘、温泉公社からお知らせがあり、そこへいろんなそういうお知らせを入れたら県内の別荘族の人にも伝わり、参加してくれるのでは。

会長 軽井沢町などの客層はほとんど別荘族。宣伝の仕方と効果性を検証しながらやっていただきたい。仕事だけが増えていった結果、今一つ効果がない場合もあるので、その辺を踏まえて考えていきたい。

(2) 多様な入館者の受入れについて

会長 今日博物館の入館者の多様性は、これまで以上に多様となり現状では多くの問題がある。障がい者という言葉一つとっても、体の問題だけでなく精神まで対応が広く難しくなっている。今までと全く違う状況で博物館を運営していく中で、やれるだけのことをやっていく。ソフトでの対応状況を見ると、検討中あるいは予定なしが非常に多いが、検討していくときにも大きなヒントになる。一番よくやっている豊科近代美術館の、視覚聴覚障がい者向けのプログラム、子供、高齢者が見やすい解説、印刷物、外国語翻訳この点をご説明いただきたい。

豊科近代美術館 ソフト事業は、現状でできることをやっている。パンフレットは、英語版は常時あり、中国語版はない。事前にお知らせいただければ準備ができるが、突然来られる場合もある。現状でできることを来館者に伝えるようにしている。この間ある電話があった。イスラム教の方にお祈りの場所を確保してほしい、お金は取るのですかと聞かれた。「用意するが、わずかな時間だと思しますので、お金は結構です」と回答した。受付の方を男性にしてくれと言われたので、可能な限り男性が対応した。女性が、電話に出るとかなり激しくお話をされるので、電話が来たら男性が出るなどした。私達の努力で改善できたり、来館者に寄り添うことができる範囲でやっている。

会長 具体的に、例えば視覚・聴覚障がい者向けプログラムは。

豊科近代美術館 視覚障がい者の方には学芸員がついて説明する。彫刻は、手袋をはめて中庭の作品は触っていただくことが可能。希望があれば、その都度触っていただく。よくお叱りをいただくのは文字が小さく読みにくいこと。できるだけ大きな文字で、キャプションを作る。背が低い方のために低めに展示する。館内が暗いとよく言われる。スポットを長期で強くすると、絵を損壊する。両立は難しいが研究して、一番良い方法を選びたい。

会長 取組として良いのは、手袋をつけて、彫刻を触らせていること。博物館の定義によっ

	でも意味合いが違ってくるが視覚聴覚障がい者向けのプランも考えていただければ。
貞享義民記念館	立体シアターを20分見ていただいている。大人には非常に好評で、喜ばれる。視覚障がいの方にとっては難しいが。展示室にタッチをすると解説が始まるものもある。小学生が毎年5、6校ほど見学に来るのでできるだけ小学生にわかるようにしている。展示や古文書もなんとかしていきたい。
会長	障がいの概念がさらに複雑になってきている。また博物館では展示品にあてる光が強ければそれは展示期間が短くなる。紙にとって暗さは重要。もし車椅子で事故があったらどう責任を取るのか、環境面のあり方と安全面の大きな矛盾も生じてきている。委員の皆さんからプラスになるような提案があれば教えていただきたい。
委員	多様性に関することも考えていただけることは嬉しい。平成29年、文化芸術基本法が施行され様々な取り組みがある。自閉的な子供たちへのプログラム、視覚障がい者に対する研修もある。ミュージアム活性化事業の研修会でも扱えるのでは。
会長	学芸員の努力によってここまで来られている。ほとんどが非常勤で、展示にはお金をかけられない状況。しかし、その向こうに多くの人に理解してもらいたいという気持ちがある。理解してもらうためにいろんな努力はしてきた。補助金も様々あるが、各博物館の非常勤職員には、補助金申請の書類作成の情報もない。
委員	大切なテーマに触れていただいている。豊科近代美術館の視覚障がいのお持ちの方に寄り添い、鑑賞のガイダンスの取り組みはとても素晴らしい。だが学芸員の力に頼りすぎているかもしれない。11月20日、松本市博物館で「目の見えない白鳥さんアートを見に行く」という全盲者の鑑賞プロセスを伝える映画の鑑賞会を開く。個々に向き合い、それがどういった効果を生むのか、その高まりがどう我々を導くのか、映画を通して得られるものは非常に大きい。また映画「手で触れてみる世界」はイタリアの国立の触覚美術館で作品に触れるという教育をしている内容。「手で見る」という環境は彫刻にとっても重要。映画を通した取り組みもできるのでは。
会長	NHKで視覚障がいの人たちがいかに見に接触するっていう番組ができたりして、ずいぶん違うと思った。
委員	障がい者の持つ情報が、意外と健常者にとっても貴重な情報になる場合もある。また外国人向けパンフレット、読む側にとっての字の大きさなどどうしたらサービスになるか、お金がない中でもどうしたら工夫が出来るか考えられるのでは。
会長	一部の障がいのある方、外国人用などへの対応はしてきた。説明の文字は大きくすると、一方で読む側は本来見るべき展示物が見えにくくなる。また、高齢者も年齢によってサービスが全く変わる。今問題なのは、どうしたら様々な人に対応して、博物館のサービスが成り立つだろうということ。提案があればご意見いただきたい。
委員	図書館では、読書バリアフリー法ができたことで対応が丁寧になされている。長野県は全国でも一番早く電子書籍を導入された。本を音声で読んでくれて音声の大きさも選べる、図書館に行くとき受け入れてくれて、開かれていると感じる。
会長	例えばホームページでもちょっと改造しようと思えば相当なお金がかかる。各館の電気代も大変な状況。エネルギーの問題、そして来ていただく人たちの経済的な状況もある。私達としては、博物館に1人でも来ていただくことによって地域の文化が上がってくると信じたいし、子供たちに新たな感動を与えるためには、何を見てもその背後には歴史があり、人の動きがあることを実感してほしい。今回の問題を具体的に言うと、高齢の方のために文字を大きくしたら、今度は読みにくいという。その説明をしていると一部の人からうるさいと声がある。全てに対応できない、という事例も抱えているはず。こうした時、博物館はどうしたらいいか、超えていかなかったら、今の社会の要望には沿っていけない。安曇野市は、非正規の学芸員さ

んが一回一回、展示を作っている、このことを分かっていたら、今安曇野市の博物館がいかにか効率的に人の心をケアする活動をしているか、お分かりいただけるだろう。全てできるわけではないけれども、多様な入館者の受け入れについても実施できているのはわずかであって、検討中の所はまだ予定がない。検討は予定なしではなくて、案を出すべきだと思う。少しでもいい形にするためには、博物館同士が互いに連携をとって、または豊田市美術館などとも繋がることもできる。博物館が観光も目的の中に入ってきて、従来とは全く違う形になり、観光でいろんな人たちが来るようになった。その他にも、電話対応、クレーム対応、その他地域の博物館の問題がいっぱいあるだろう。多様な人への対応に関して多くの問題があることを、委員ご理解いただいた上で事例や提案をいただき、話し合うことによって、前に行けるようにしたい。

8 その他

9 閉 会

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。